

めざす児童像

かしこく……めあてをもち、すすんで学ぶ子ども
やさしく……優しく思いやりがあり、感謝できる子ども
すこやかに……元気で、くじけず、やり抜く子ども

URL <http://www.kizu.ed.jp/kunimidai-es/>

一年の計は元旦にあり

新年あけましておめでとうございます。『一年の計は元旦にあり』と申します。「一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ。」とのことです。始業式の今日は、学校にとっての“元旦”です。本日、児童たちは、各教室で3学期や今年目標を考えています。学校では発表できないような、個人的な目標

があっても良いと思います。普段は、日々の忙しさにまぎれてしまい、そのようなことをじっくり考えることができません。「年の始め」という節目をうまく利用して、しっかり考えてほしいです。

さて、学校としては、この3学期は、令和3年度の目標の仕上げ、総括をしていきます。年度当初の目標の一つとして、『不透明で不確実な時代を生き抜く力の獲得：昔から言われる「読み書きそろばん」いわゆる基礎的な学力と、これからの時代を生き抜くための“ツール”としての「ICT・外国語」の知識と技能の習得』を掲げていました。その一環として、タブレットの使用を促進したり、オンライン会議ツールの Teams を使用したり、デジタルドリルの活用を考えています。併せて、5・6年生に限られていましたが、オーストラリアの小学校とのオンライン交流も計4回実施しました。限られた単語・知識でそれほど満足のいく会話はできないのですが、それでも画面の向こうの、自分たちと同年齢の子ども達との交流は、きっと子どもたちの心の中に『何か』を残す取組であると思っています。3・4年生も外国語活動として、週に1回ではありますが、英語に触れる機会があります。例えば、オーストラリアの小学生との交流の様子を写真やビデオで見ることで、外国の文化に興味を持ち、視野を広げることも可能です。

読売新聞(R3.12.8)



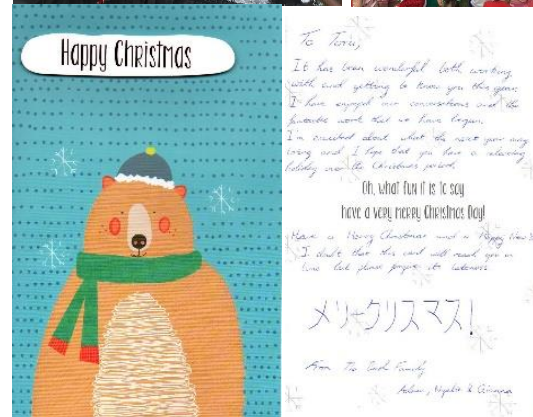
豪の児童と遠隔交流

木津川市立州見台小学校の6年生(100人)が、オーストラリアの公立小学校の児童と、オンラインで交流した。写真。授業は2階視聴覚室の大型画面を使って実施。週1回、日本語の授業のあるメルボルン近郊のニューヘイブンプライマリースクールの児童と対面した。日本の児童は「どんなスポーツが好きですか」「学校近くで珍しく、誇れるものは何ですか」などと質問。これに対し、豪州の児童は「フットボール」「学校から30分も行けば、野生のペンギンが見られるよ」などと日本語で答え、児童が「えー」と驚きの声をあげる場面も見られた。

渡辺仁君(11)は「はじめは恥ずかしかったけど、話しているうちに打ち解けることができた」と笑顔。林実穂さん(12)は「文化の違いを実感した。楽しい授業で、また機会があれば聞いてほしい」と話した。

志賀徹校長(56)は「英語に親しみ、国際感覚を身につけてくれたら」と期待していた。

オーストラリアのクリスマス



⇒ニューヘイヴン小学校のアダム先生から届いたクリスマスカード。カタカナで「メリークリスマス」と書かれていることに“歩み寄りの気持ち”が感じられ嬉しいです…



日記の効用

「10年日記」というものがありまして、例えば、1月1日のページには10年分の欄があります。(2022年版ですと、2022から2031までの欄が1月1日のページに存在します)1月1日が来る度、このページを見て、「～年前のお正月は、こんなふうにご過ごしていた」というのが確認できます。1日を振り返って何かを記入することは、書く訓練にもなります。わずか4行です。お子様と相談されて、新たなチャレンジとされても良いかと思います。『継続は力なり』です。(ただし、最初から10年分もあるとプレッシャーになり、最後まで続かないことも考えられますので、最初は1年単位の日記からスタートするのもOKです。)

新型コロナウイルス第6波が懸念されています。本配布の「新型コロナウイルス感染症対策について(お願い)」をお読みいただき、引き続き、ご協力お願いいたします。なお、前月号でお知らせした1月の学校行事について、変更となった場合は、文書・メール等にてお知らせいたします。
〔14日(金)に予定していた避難訓練(地震)については17日(月)に変更しました。〕